

「六神山」を訪ねて

出雲市朝山の神門郡の山の記述には、大神の御用の道具に見立てた山が、非常に狭い範囲の中から六つ記されています。それは御屋(神の宮)・稲積(陰)・頭にかける髪飾り(稲・稗・冠)で、それぞれ山の形などから見立てたものと思われる。これらの山は、現在の出雲市朝山の盆地にある山々と考えられます。朝山盆地は、まわりを奇岩のある山や変わった形の山に囲まれ、一種独特な神話の雰囲気にも包まれていることから、こゝに伝承が生まれたのでしょうか。



岩根観音(陰山と考えられる)



雲井(うい)滝



鞍掛(くらかけ)山(銚山か)手前が稲山



稲山と考えられる山



1.朝山郷庁推定地 2.宇比多伎山 3.稲積山 4.陰山 5.稲山 6.杵山 7.冠山  
は加藤説 / は編集部説(加藤説と異なる所)



西南側の山々。県道が宇比多伎山の西側をトンネルで越えている。左端に南中学校がわずかに見える。



西から見た山々(中央は南中学校。右の鉄塔のある山が加藤説・冠山。左端が杵山と考えられる)

これらの山が朝山のどの山にあたるかを判断するのはなかなか困難です。風土記記載の方位、距離と山の形から推測するしかありませんが、ここでは加藤義成氏の説とあわせて、当編集部の推測も紹介しましょう。

稲山は、岩根観音の対岸にある独立した丸い山です。

杵山は、朝山盆地の東奥にそびえる鞍掛山(二〇〇m)と考えられます。この山は頂上に二峰の岩が突き出している。天空を指す銚山のようにも見え、雲間のある山です。

冠山は、加藤説では陰山の南方の山にあてていますが、山の形から見ると鞍掛山南方の丸い山のほうがよいように思えますが、どうでしょうか。

以上のように、加藤説は朝山郷庁推定地を起点にして、さまざま方向に距離を換算して考えていますが、編集部は稗原川に沿って上流側へ順にあててみました。みなさんも現地に立って推測してみたいかがでしょうか。



秋鹿郡

足日山。郡家の正北七里なり。高さ一百七十丈、周り一十里二百歩あり。



経塚山(松江市秋鹿町より撮影)

松江市秋鹿町と鹿島町古浦の境の経塚山(三一六m)北側は急峻です。海に女心高野。郡家の正西一十里二十歩なり。高さ一百八十丈、周り六里あり。土體豊かに沃えて、百姓の膏腴の園なり。樹林なし。但、上頭に樹林あり。此は則ち神の社なり。

松江市大垣町北の本宮山(二七九m)土が豊かに肥えた、農民の生活を豊かにする農園で、頂上以外は林はないと記されているが、今もそのとおり。松江から見ると、六道湖に突き出すようにそびえる、電波塔のある山。



本宮山(松江市東長江町より撮影)



楯縫郡

今山。郡家の正西一十里二十歩、周り七里あり。



十膳山(松江市大野町より撮影)

不明確だが、十膳山の北の室山(二五二m)と言われている。

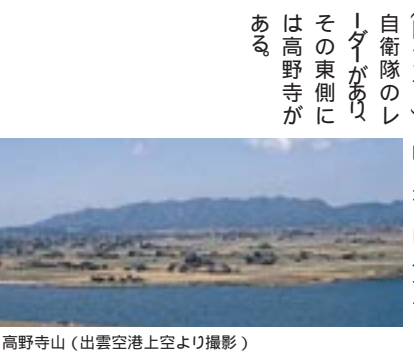
阿豆麻夜山。郡家の正北五里四十歩なり。

平田市岡田町、多久谷町北方の檜ヶ山(三三三m)。戦国期には城があったといふ。



檜ヶ山(平田市多久谷町より撮影)

見くら。郡家の西北七里なり。平田市街の北にそびえる高野寺山(四一五m)と呼ばれる山。頂上には自衛隊のレーダーがあり、その東側には高野寺がある。



高野寺山(出雲空港上空より撮影)



大原郡

菟原野。郡家の正東なり。即ち郡家に属し、郡家の正東なり。即ち郡家に属し、郡家の正東なり。

高麻山。郡家の正北一十里二十歩なり。高さ一百丈、周り五里あり。北の方に檜・樺等の類有り。東南西の三方は並びに野なり。古老の傳へに、かく神須佐能衰命の御子、青幡佐



木次町菟原周辺の山(木次町里熊大橋より撮影)

草日子命、是の山の上に麻時き給ひき。故、高麻山と云ふ。即ち此の山の岑に坐すは、其の御魂なり。



高麻山(大東町幅屋より撮影)

城名樋山。郡家の正北一里一百歩なり。所造天下大神大穴持命、八十神を伐たむとして城を造りたまひき。故、城名樋と云ふ。

木次町里方北方の山から斐伊川に突き出した標高一〇〇メートルあまりの山で、今でも城奈樋山と言ふ。大穴持命が八十神を平らげるために城を築いたと記されている。



城奈樋山(木次町里方より撮影)

須我山。郡家の東北一十九里一百八十歩なり。檜・杉あり。



八雲山(大東町山王寺より撮影)

大東町と八雲村の境にある八雲山(四二六m)と思われる。頂上まではハイキングコースも整備され、気候に登れる。中腹には、巨岩が並び、夫婦岩などの奇岩も多い。

大東町北村の細長く低い船岡山。県道松江木次線を松江方面から向かうとよく見える。「神が引いてきた船」といふ伝承が記されているが、まさに大きな軍艦をひっくり返したような奇妙な形をした山だ。



船岡山(大東町北村より撮影)